

かた はら まち い せき 片 原 町 遺 跡

1. 所在地 高松市片原町
2. 調査主体 高松市教育委員会
3. 調査期間 平成12年6月15・16日、
6月22日
4. 調査面積 120m²
5. 調査担当者 小川 賢
6. 調査の原因 片原町駅西第3街区第1種
市街地再開発事業
7. 調査結果の概要

6月15・16日：北東隅で工事掘削の際、地表面から約1.2m下の黄色砂層上面でピット及び土器片を確認した。遺構の範囲が拡大することが想定されたため、工事関係者了解の下で、当面の掘削範囲における遺構の検出・記録作業等を行った。確認した遺構は、溝跡、ピット群、土坑である。溝跡は、平面でL字形に検出され、上部に堆積した暗灰黄色シルト層から遺物が大量に出土している。6月22日：工事の掘削は西側まで進んでおり、立会は北西隅で行った。前回見られた遺物の包含層を確認したため、これを除去し遺物を探取した。包含層の上面では、近世以降の所産と考えられる土坑3基がみられたが、それより下位においては遺構を確認できなかった。

8.まとめ

当地は、史跡高松城跡の外堀に推定されるラインに南接しているが、城跡に直接関係する遺構、遺物は見られなかった。検出された遺構は、15~16世紀代を中心とした所属時期が考えられ、築城期となる16世紀末~17世紀前半頃には廃絶するものと思われる。発見された遺跡周辺は、港湾部に位置していることから、中世においても経済、流通の拠点であったと推測される。今回の調査は、部分的なものであるが、同じ中世後半に商業活動で賑った香西浦において検出された居館跡（香西南西打遺跡）と類似し、築城以前の様相の一端が明らかになった。（小川）



第1図 遺跡の位置（「高松北部」）



第2図 東側立会箇所全景

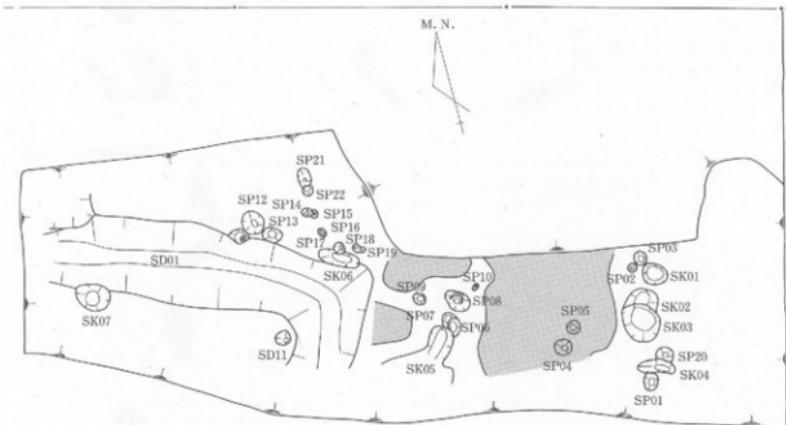


第3図 L字形溝跡（SD01）



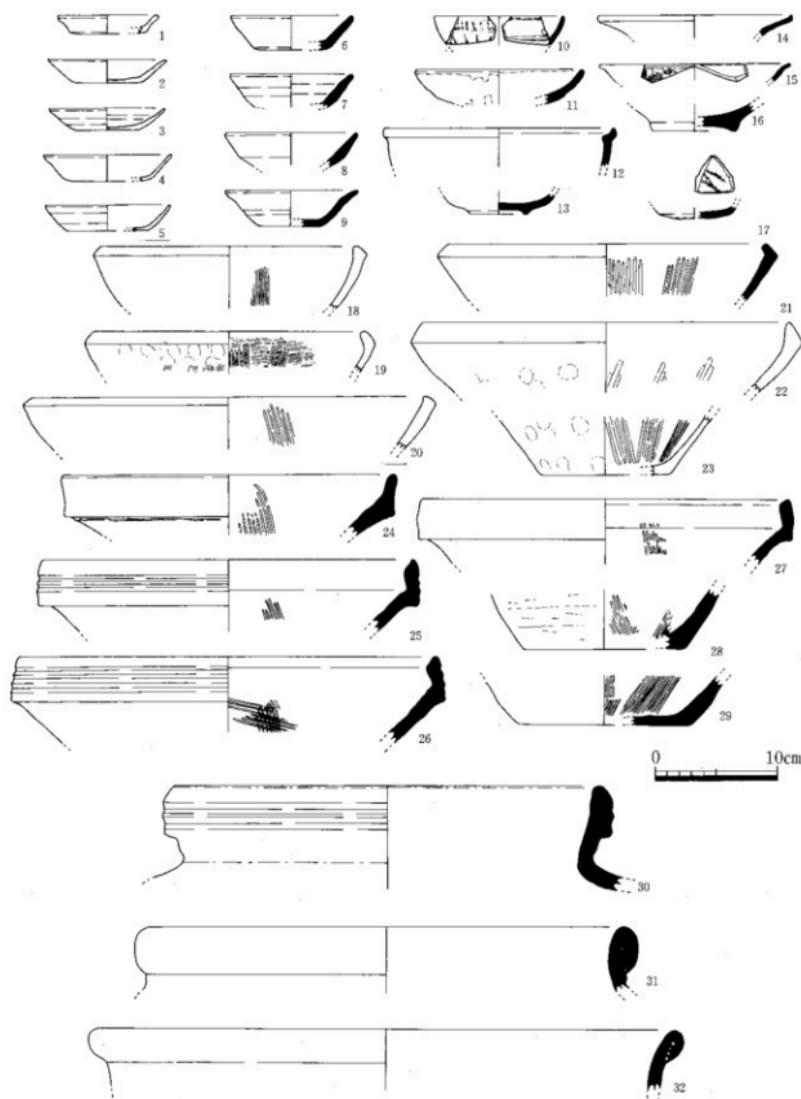
第4図 工事立会周辺図 (1/1,000)

破線箇所：施設建築敷地
網かけ箇所：立会位置



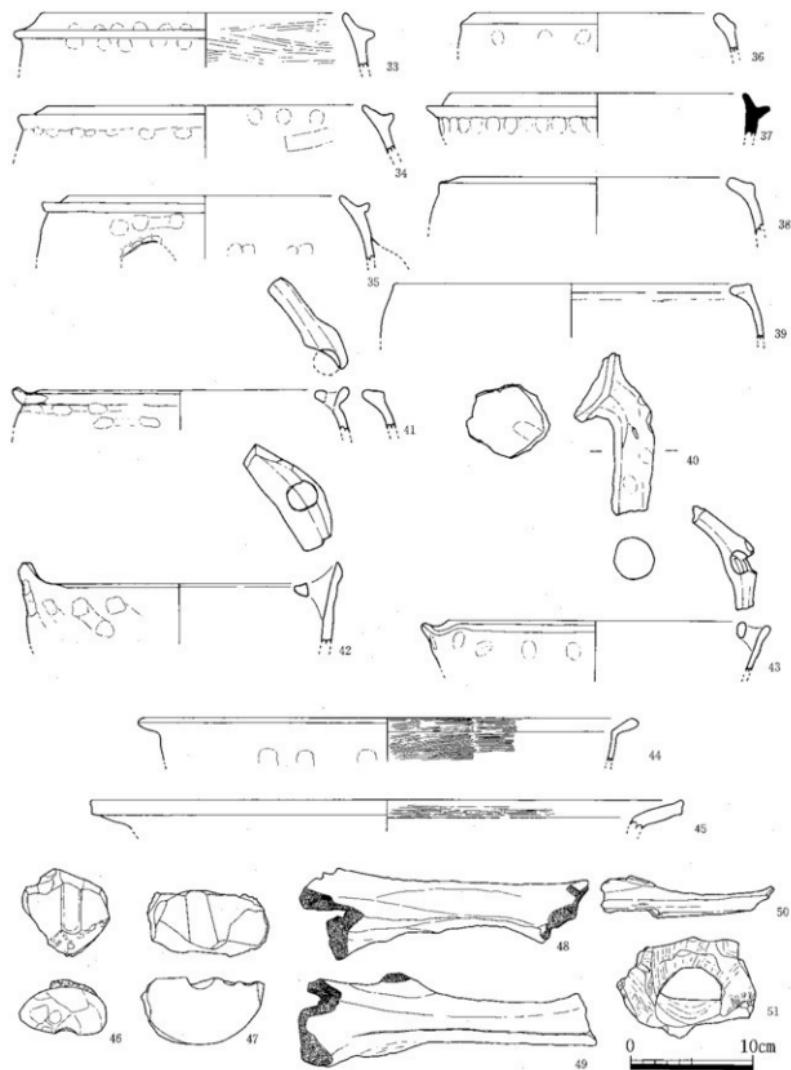
SD01: 上層部-2.5Y4/2暗灰黄色シルト(地山を含む) 下層部-2.5Y4/1黄灰色砂混じりシルト SP17~19, SK06: 2.5Y3/1黒褐色シルト
SK01: 上層部-5YR5/3にぶい赤褐色シルト(炭混じり) -2.5Y4/1黄灰色シルト その他は全て2.5Y4/1黄灰色砂混じりシルト
地山: 5Y6/4オリーブ黄色砂 網かけ箇所: 拴乱範囲

第5図 東側立会個所遭構配置図 (1/100)



1~5:上級質土器皿 6~9:備前焼灰 10:肥前系器皿 11:肥前系陶器碗 12:瀬戸美濃系陶器鉢 13,14:肥前系器皿 15:中国産染付皿
16:肥前系磁器碗 17:青磁小皿 18~23:土御質土器擂鉢(23は須惠質) 24~29:備前擂鉢 30~32:備前燒灰

第6図 片原町遺跡 S D01出土遺物1



33~40:土師質土器羽釜(37:須底質,40:脚部) 41~43:土師質土器把手付鉢 44:土師質土器焰口 45:土師質土器鉢 46,47:羽口
48~50:牛骨 51:貝殻(サザエ)

第7図 片原町遺跡S D01出土遺物2

花池尻中遺跡

1. 所在地 大川郡志度町志度字花池尻
2447番
2. 調査主体 志度町教育委員会
3. 調査期間 平成12年4月10日～5月22日
4. 調査面積 約560m²
5. 調査担当者 大川地区広域行政組合 阿河鏡二
6. 調査の原因 民間大型店舗建設
7. 調査結果の概要

花池尻中遺跡は昨年度の試掘調査によって所在が確認された遺跡である。今年度は構造物の影響の及ぶ範囲について発掘調査を実施した。調査地は西側微高地の最高所に位置する水田一筆で、海拔高約14mを測る。遺構面は地表から約30～60cm下の灰黄色土上面にて検出された。南から北に向かって緩やかに傾斜しており、南北においては遺構面まで削平が及んでいる。検出された主な遺構は掘立柱建物・柱穴・柵列・土坑・井戸などがあり柱穴は400個以上を数える。掘立柱建物は総柱建物と四面庇建物各1棟をふくむ計5棟で、長軸方向の異同から2時期に分けることができる。柵列は調査区の西端、建物群の西側を接するように南北方向に20m以上延び、さらに調査区外につづく。このほかに土葬墓が1基検出されている。長さ190cm、幅80cmのやや隅丸の長方形を呈し、東西方向に主軸をとる。削平のため深さは約10cmを残すのみであるが、土坑内からは人骨の一部と副葬品が出土している。人骨の出土状態は良くないが頭位方向は東側と推定される。副葬品としては鉄製品があり、短刀と雁股鏡などが数本まとめて出土している。

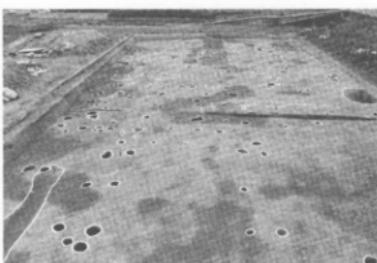
8.まとめ

調査地は中世前半頃の集落の屋敷地と考えられ、掘立柱建物数棟と井戸を基本に柵列などで区画し、また屋敷墓と考えられる土葬墓が伴うようである。また、12世紀後半頃には志度荘が成立したことから、今後は村落の様相などについて周囲の遺跡を含めた検討が必要となる。

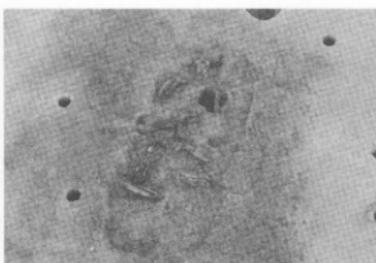
(阿河)



第1図 遺跡の位置（「志度」）



第2図 調査地近景



第3図 土葬墓調査状況

樋端2号墳丘墓

1. 所在地 大川郡白鳥町白鳥字寺前1816
- 3
2. 調査主体 白鳥町教育委員会
3. 調査期間 平成12年12月20日
～平成13年2月2日
4. 調査面積 約500m²
5. 調査担当者 大川地区広域行政組合 阿河銳二
6. 調査の原因 民間採土事業
7. 調査結果の概要

標記事案に伴う確認調査によって竪穴式石槨が発見されたため本調査を実施したもので、弥生時代終末期併行の墳丘墓であることが判明した。調査地は大内町との境にある原間池の南東岸丘陵上に位置する。ちょうど与田川と湊川の間に南背の讃岐山地から虎丸山を経てつづく山麓地の先端付近にあたり、現在では独立丘陵状を呈する。この丘陵には3箇所のピークがあるが、墳丘墓は海拔約32mの原間池に突き出た西側のピーク頂部に立地する。墳丘は地山整形によるもので、墳形は地形改変のため明確には判じがたいが不整な円形とおもわれ、直径は約16mを測る。埋葬施設は墳丘中央に竪穴式石槨、墳丘西側裾部に木棺墓とおもわれるものがある。また、丘陵東側鞍部にあたる墳裾には長さ8mほどの周溝が掘られ、溝内埋葬として土器植墓と土坑が各1基ある。竪穴式石槨は東西主軸・上方外開き壁体・墓坑上面での疊群などは前段階に認められる属性であるが、川原石積み・朱の使用・墓坑底の断面U字形の掘込みと小口溝などは、県内における初源的なものといえる。前者については寒川町奥10号墓の影響がうかがわれる。

8.まとめ

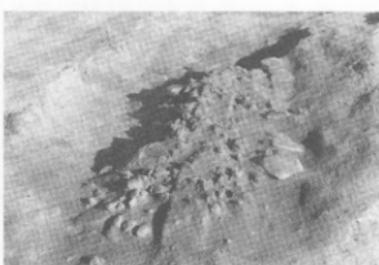
以上の結果と出土土器より樋端2号墳丘墓は下川津IV式段階頃の首長墓であり、その築造に関しては隣接して所在する樋端遺跡・成重遺跡などにおける地域内の多様な墓制との関係、また各属性の受容と創出に介在したであろう広域的な関係の検討が必要である。(阿河)



第1図 遺跡の位置（「三本松」）



第2図 調査地遠景



第3図 竪穴式石槨検出状況

III 平成12年度財団法人香川県埋蔵文化財調査センターの発掘調査概況

(1) 県事業に伴う調査状況

1. 調査の概要

県事業関係の発掘調査は、サンポート高松総合整備事業及び農業試験場移転に伴い実施した高松城跡、浜ノ町遺跡と北・山田下地区の予備調査である。

サンポート高松関係の高松城跡の発掘調査では、JR四国高松駅周辺地区の調査が終了した。今年度は高松城跡関係では最後に残った対象地東南部の都市計画道の整備予定地とその北に位置する区画整理部が対象となった。12年度末にこの調査を終了し、高松城跡のサンポート関係の発掘調査は完了した。また昨年度末から着手した区画整理部の浜ノ町遺跡を今年度引き続いて調査を実施した。発掘対象面積は高松城跡の区画整理部が650m²、都市計画道路の街路部が280m²、また浜ノ町遺跡は3,035m²を対象として調査を実施した。

浜ノ町遺跡では、当初の予算案作成時点で調査対象地に含まれていた駐輪場部を中心としての2,022m²が、次年度送りになった。浜ノ町遺跡は、西の浜の舟入の西側に位置し一部には船塁等の施設の存在の可能性とともに試掘調査により確認された中世の集落跡等が広がっていることが想定された。調査の結果、昨年度末に検出した中世後半以降の規模の大きな区画溝と共に掘立柱建物等を検出し、漁具が出土することから中世段階では漁村として機能し、その後の地割り溝等の存在から松平初期の様相を表す高松城下図屏風に表現された様相と対比可能な可能性をもつ資料が得られた。また高松城跡の発掘調査は、南北の区画整理部東端の高松駅前通線に面した箇所の調査を実施した。中堀推定地に近接することから堀の西岸護岸石垣一部や西の御下馬からの西の丸南の西新門への入り口部に近接する箇所にあたり調査では南部は昨年度当初に実施した石積み基壇とその後の南北方向の溝を検出し、中堀に沿って通路状の施設が南北に存在したことが判明した。また北部では下層の中世の割石を敷き詰めた施設が検出されるなど昨年度までの隣接地と類似した様相の遺構を検出した。

農業試験場移転に伴う北・山田下地区の調査は、予備調査に関する同意が得られた綾上町北地区で200m²の予備調査を実施した。

2. 遺跡別発掘調査の概要（県事業）

遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	遺構	遺物
高松城跡	高松市西の丸町	930m ²	平成12年11月1日～12月31日	柵列・溝・井戸	陶器・瓦
浜ノ町遺跡	高松市錦町	3,035m ²	平成12年4月1日～11月31日	掘立柱建物溝	土師器
北・山田下地区	綾上町北	200m ²	平成13年2月1日～3月31日	溝・柱穴	弥生土器

(2) 県道事業に伴う調査状況

1. 調査の概要

平成12年度の県道（県管理国道を含む）工事に伴う埋蔵文化財発掘調査は、当初予定では、中徳三谷高松線高松市上林遺跡・国道438号坂出市川津六反地遺跡・川津昭和遺跡、県道紫雲出山線詫問町本村中遺跡、県道丸亀詫問町浜線三野町西久保谷遺跡、地域高規格道路高松市岡本地区の合計13,991m²の発掘調査を実施する予定であったが、用地取得等の遅れから高規格道路高松市岡本地区的調査が県道中徳三谷線上林遺跡の追加調査へ変更となり、14,510m²の発掘調査をセンター直営方式で実施した。

上林遺跡は、弥生時代から中世にかけての集落域が展開する空港跡地遺跡の南に位置し、弥生時代後期の直線的な用水路と考えられる東西方向の溝や掘立柱建物を検出している。弥生時代の地域開発に関する基礎的な資料を得ることができた。

川津六反地遺跡では、縄文時代の石器製作ブロックと共にサヌカイト素材剥片の集中箇所を検出している。ブロックからは石鎚の未製品が含まれるほか非常に小片のチップが大半であり、素材剥片からの石鎚等の小型の石器を作成したブロックで、隣接する素材剥片の集積箇所と同時期のものと考えられる。サヌカイト原産地の金山の南側谷筋が丸亀平野に出た位置に本遺跡が立地することや、土器等の遺物の出土がないことなど本遺跡が集落域に近接していないと考えられる。一連の石器製作の典型的パターンを示すものとして注目される。川津昭和遺跡では、弥生時代後期の基幹水路を検出した。近くの下川津遺跡などで検出した基幹水路とほぼ同時期・同規模のものであり、平野内に何条も水路が巡らされていることが判明し注目される。

本村中遺跡は、昨年度調査区の西側に隣接する調査区で縄文時代早期の遺物包含層と弥生時代後期の溝および中世後半の溝が出土している。中世後半の溝は調査区内の池状の落ち込みから延びるもので湧水を利用して灌漑施設の可能性が考えられるものである。

西久保谷遺跡では古墳時代後期の竪穴住居と奈良時代の掘立柱建物を検出し、土錐・銷壺などの漁労具とともに製塙土器が出土している。調査対象地の北東側に広がる砂州上で製塙が行われたものであろう。三野郡からの調塙木簡もあり注目される。

2. 遺跡別発掘調査の概要

遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	遺構	遺物
上林遺跡	高松市上林町	7,766m ²	平成12年9月1日～13年3月30日	掘立柱建物溝	弥生土器
西久保谷遺跡	三野町大見	2,400m ²	平成12年4月1日～7月31日	竪穴住居掘立柱建物	弥生土器 製塙土器
本村中遺跡	詫問町詫問本村中	1,319m ²	平成12年8月1日～10月31日	溝	縄文土器 弥生土器
川津六反地・川津昭和遺跡	坂出市川津町	3,025m ²	平成12年9月1日～13年1月31日	溝	弥生土器 サヌカイト片

(3) 横断道事業に伴う調査状況

1. 調査の概要

平成8年度から5年間にわたり実施してきた四国横断自動車道の高松市内の区間および津田引田間建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の現地発掘が今年度で完了した。合計調査面積は高松市内の区間37,203m²、津田引田間145,724m²で、総面積は182,927m²となる。

1. 高松市内区間調査の概要

高松市内の横断道関係埋蔵文化財発掘調査対象地は、高松・普通寺間と高松市内区間の2工区に分かれる。今年度の発掘調査は、香川郡条里B八幡遺跡1,542m²、香川郡条里B中森遺跡752m²、香川郡条里D2,500m²の合計4,794m²の調査を実施した。

八幡遺跡の発掘調査は、4月～5月に実施した。昨年度に引き続くもので建物退去後の調査が大半である。粘土採掘土坑など地元の近世御腰焼に関係した可能性の高い遺構を昨年度に続き検出した。

中森遺跡の発掘調査は、概ね8月～9月にかけて実施した。国道11号の北側の調査区ではサスカイトの剥片が出土し、平成10年度の調査で検出した旧石器分布域の西端となるものと考えられる。

香川郡条里D地区の調査は、幅4mの狭長な調査区で、遺跡の広がりや古環境の復元が調査の目的である。11号の北側ではそのため工事計画に合わせ現地で確認を行ったが、3カ所のトレンチを四国地方整備局側が掘削しその確認を10月に実施した。調査対象地は、いずれの地点でも現地表の造成面から約2m下で細砂層を検出した。細砂層は、御坊川(旧香東川)の河川堆積によるものであると考えられる。

2. 津田引田間調査の概要

今年度の発掘調査は、津田引田間で最後に残った白鳥町の谷遺跡で、4月～8月にかけて発掘調査を実施した。調査面積は900m²である。本遺跡は19世紀後半代の陶器を焼いた連房式登り窯で、京焼陶工が開いた譲窯とその後の影響、もしくは譲窯開設に至った東讃東部の陶器生産状況についての資料が得られた。

2. 遺跡別発掘調査の概要

遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	遺構	遺物
八幡遺跡	高松市檀紙町	1,542m ²	平成12年4月1日～5月31日	溝	土師器
中森遺跡	高松市檀紙町	752m ²	平成12年8月1日～10月31日	溝	サスカイト 土師器
香川郡条里D	高松市田村町	2,500m ²	平成12年10月1日～10月31日	中世包含層	土師器
谷遺跡	白鳥町白鳥	900m ²	平成12年4月1日～8月31日	連房式登窯	陶器、窯道具

(4) 国事業に伴う調査状況

1. 調査の概況

ここで扱う国事業とは横断道関係の事業を除くものである。国土交通省関係では、国道32号綾歌バイパス渡池・住吉地区の発掘調査と満濃バイパス建設に伴う発掘調査では羽間遺跡・室塚遺跡の発掘調査を実施し、国道319号普通寺バイパス関係では西原地区の予備調査を実施した。警察庁の機動隊訓練施設整備事業では汲仏遺跡の発掘調査を実施した。

4月に実施した綾歌バイパス関係の綾歌町渡池・住吉地区では、631m²の予備調査を実施し、中世以降の掘立柱建物群の広がりを確認した。遺構密度がさほど高くなかったこともあり、遺構の広がりを確認し得た範囲は引き続き発掘調査を実施した。

満濃バイパス関係の満濃町羽間遺跡は5月から9月まで発掘調査を実施した。調査面積は3,749m²である。羽間池の西側の緩斜面部に位置し、弥生時代後期の集落跡と丸亀平野西部の条里地割りに規制された中世の溝等を検出した。このうち弥生時代後期では時期差があると考えられる円形と方形の竪穴住居跡各1棟と大型の掘立柱建物を1棟検出した。

同じ満濃バイパスの綾歌町室塚遺跡は11月から1月までの3ヶ月間で発掘を行い調査面積は2,056m²である。対象地西部の丘陵稜線上から弥生時代後期の土坑墓と終末期の横穴式石室墳を検出した。土坑墓は稜線上に平行もしくは直交するように営まれており、そのうち1基は昨年度予備調査の際に出土したほぼ完形の弥生時代後期壺の下位で土坑墓を確認した。他はほとんど遺物が出土していらず、副葬品としてもその程度のものであろう。

普通寺バイパス関係の普通寺市西原地区の予備調査は、10月に実施した。調査面積は446m²である。調査対象地は丸亀平野の条里地割りが一部認められる。調査の結果弥生時代と考えられる溝と条里地割りと関係する坪界の溝を検出した。

警察庁関係の高松市汲仏遺跡は、平成10年度に実施した機動隊舎の付属施設の建設に伴うもので、6月から7月にかけて360m²発掘調査を実施し、前回の調査で検出した弥生時代後期の集落の環濠の延長部を検出した。

2. 遺跡別発掘調査の概要

遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	遺構	遺物
渡池・住吉地区	綾歌町栗熊東	631m ²	平成12年4月1日 ～4月30日	掘立柱建物	土師器
羽間遺跡	満濃町羽間	3,749m ²	平成12年5月1日 ～9月30日	竪穴住居 掘立柱建物	弥生土器
室塚遺跡	綾歌町岡田上	2,056m ²	平成12年11月1日 ～13年1月31日	土坑墓 横穴式石室	弥生土器 須恵器
西原地区	普通寺市与北町	446m ²	平成12年10月1日 ～10月31日	溝	弥生土器 土師器
汲仏遺跡	高松市多肥下町	360m ²	平成12年6月1日 ～7月31日	溝	弥生土器 土師器

香川県埋蔵文化財調査年報
平成12年度

平成14年3月29日 発行

編集 香川県教育委員会事務局文化行政課

高松市天神前6-1

電話 (087) 831-1111

発行 香川県教育委員会

印刷 梨成光社